

## ★ユーラシアでの非核・非同盟の流れ＝堀江則雄（日本ユーラシア協会理事長）

日本ユーラシア協会の堀江則雄理事長は2018年12月11日、日本AALAの学術研究部会で講演し、ユーラシア大陸での新しい動きを報告しました。同氏は、5月にカザフスタンでの反核対話集会、キルギスでの日本キルギス平和フォーラムに参加し、そこでの第3回世界遊牧民オリンピック開催を観戦してきました。そこで感じたことも含めて報告したいとして以下のように語りました。

### 世界の重心が変わっている表れ

カザフスタンのアルマトイには、いまモスクワ経由でなくインチョン経由でいきます。なぜかというとな朝鮮の人が多からです。高麗の人30万人をスターリンが強制移住させた1930年代末、その後があつてソ連崩壊直後から、ヒュンダイやLGなど韓国企業が大量進出しました。

ことし（2018年）キルギスのイシクル湖で平和フォーラムがあり参加してきました。ここは仏教が日本に伝わった地域です。玄蔵法師があそこまで行って、そこから南に回って日本にきた、キルギスはもともとアルタイの方にいたのですが、西にいったのがキルギス人で東にいったのが日本人という話があつて、DNAも同じで顔かたちも日本人と同じで区別が付きません。



カザフスタンでも感じたのは若さです。アルマトイは建築ラッシュで、地下鉄も

できて、60年代や70年代の新宿みたいな雰囲気です。チャイカナといカフェに若者が集まって、エネルギーがあふれています。

この国の反核の動きは顕著です。セミパラチンスクでの500回近くの核実験で被害をうけ、日本と同じ被爆国という意識が強い。このうち50回近くは地上実験だった。150万人の被爆者がでている。障害持つ人が多い。ソ連崩壊の5、6年前から広島・セミパラ・ネバダが連携して、同じ被爆者だ、モツモットになったとうことで盛り上がりました。そのなかで非核地帯が作られました。

ソ連崩壊後の1995、94年に戦略ミサイルを放棄しました。そういう動きになって、核兵器禁止条約では、日本ではICANとかメキシコ、オーストリア、コスタリカといった諸国の努力ばかりがいわれますが、中央アジアではカザフスタンが先頭にたちました。政府がそういう姿勢だから友好協会の人たちもそういう動きで、セミパラ広島の運動と核兵器禁止条約を推進しました。反核フォーラムをしたが、そこに日本の大使館に参加をよびかけたけれど、来てくれなかった、どうしたのかといわれました。実はこうこうだといったら、人々はおどろいていました。

遊牧民オリンピックというのは、遊牧民は遅れているから定住しなければならない、近代化しなければならないという考え方できましたが、いまそうではありません。先進国が時代閉塞で、効率と合理化だけすすめて楽しそうな顔していないではないか、遊牧3千年とのかかわりが重要だという、遊牧民文化に対する考え方がかわってきています。新しい時代のきっかけになるというわけです。

6月に3つの重要な会議がありました。カナダでのG7首脳会議では、トランプが自由貿易の声明を撤回して、矛盾が強まりました。G7の力が落ちてきています。同じ日に青島で上海協力機構(SCO)の首脳会議が開かれて、世界人口の4割、GDPの20数%をしめる諸国が前向きの協力をうちだしました。象徴的な対比です。それに続いてシンガポールでの米朝首脳会談があった。欧米と非欧米の経済力が逆転する中で、欧米とは違う近代化の在り方があるのではないかという機運ができようとしているのではないか、その中でユーラシアをかんがえてみたい。

### 自立をめざして踊る地平線

ユーラシアの歴史的転換点は、ソ連崩壊と中国の改革開放です。とりわけソ連の

崩壊は、論争が続いていますが、2つの大きな流れがでてきた。それはユーラシアという地域ができてきたことです。17世紀以降はロシアと清との境界の動きがあって、地域はロシアと中国にわかれました。ユーラシアが分断されて、シルクロードの経済圏はなくなってしまいました、それが復活したのがソ連崩壊でした。だから3~00年の流れで、国境が画定されたところがゲートウェイになって、この20数年で経済圏ができあがりつつあります。

その柱が鉄道と道路、パイプラインの3つです。鉄道ではシベリアがありますが、モスクワと北京を結ぶ別の線をつくらうとしています。新幹線型のです。もう一つは東シナ海からカザフを通過してポーランド、オランダまでいく。さらにもう一つはその南、イランからトルコを経て、西につながる線です。道路は中央アジアから繋がって高速道路になっています。

さらに石油と天然ガスの流れで、以前のパイプラインはロシアから西ドイツに行くものしかなかった。カスピ海からモスクワにいて西に行くしかなかった。ところがいま東にドンドン流れるようになっていく。トルクメニスタンからインドへ、インドとのエネルギーの網の目ができつつある。これらが躍る地平線です。そこに近代的な都市群が出来上がりつつある。ロシア、中国、インドがつながる経済圏です。

ソ連崩壊で中央アジア5カ国が独立しました。それからゼルバイジャンが独立した。西からいくと、チュルク系3民族はせいぜい2, 3千万人とおもうでしょうけれど、実は1億4, 5千万人いるのです。トルコ、アゼルバイジャン、トルクメニスタン、ウズベクスタン、カザフスタン、キルギス、ウイグル、そしてロシアにもタタル、チェチェン、ヤクツクまで、チュルク系の民族がいます。政治的にはプーチンが強権で支配しているといわれるが、構造的にはこれらは連邦国家です。

それはなにかというと連邦構成体が連邦条約を結んで参加するという建前になっているからです。その条約を結ぶときにタタールスタンとサハ共和国は、自分のところでとれる資源、天然ガスと、サハの場合はダイヤモンドと鉄が多いのですが、ソ連時代には生むをいわさずもっていかれていたのが、条約では何%は自国の所有だという協定を結びました。つまり自立した動きになっている。タタールスタンの首都のカザンですが、イスラムが自由にできることになって、モスクワがどんどんできた。経済を自立して、モスクワの指示を受けなくても、自立した動きがでていきます。トルコ以外はこれまで政治的にゼロでしかなかったが、それ

が経済とともにチュルクの復興という大きな流れになっています。

## 上海協力機構（SCO）ですすむ

日本では中国の一带一路については、2013年に習近平がアスタナで打ち出して、翌年にインドネシアで海のシルクロードを打ち出したとされていますが、実はもっと前から構想があって上海協力機構（SCO）なんかでも議論をやっていました。それが中国の大金がはいってきた一挙にすすみだした。ロシアは「ユーラシ経済連合」でEUレベルまで統合をすすめようとしています。参加しているのは、ロシア、ベラルーシ、カザフスタン、アルメニア、キルギスです。それと中国との連携が強まっています。そのうえウクライナ危機での対ロシア経済制裁以降、さらに連携の動きがよまっています。もちろん問題はいろいろ抱えています。

それを束ねるのが上海協力機構です。できたのは国境画定してからです。ロシア、中国、他の諸国との国境が画定して、ロシアと中央アジア3カ国が中国の上海にあつまって5カ国で始まりました。それにウズベクが加わって2001年に地域機構として発足しました。憲章をよむかぎり、ブロックとか同盟ではなく地域協力機構として国連に協力するものです。また地域の相互協力をすすめる、同時に国際経済秩序の公正かつ民主的な転換を求めるという柱があります。首脳会議だけでなくいろいろなレベルの会議による組織ができあがっています。

もう一つは、対テロの協力でできあがりしました。中国もロシアも影響力を広げようという思惑があります。それは否定できないが、それが軍事同盟のような方向にいつているのではありません。むしろASEAN型の組織を目指したいといっています。コンセンサス方式を規約や内規できめていて、インドとパキスタンが5、6年前からオブザーバーだったのが、2017年に両国が正式参加して8カ国になりました。それ以外にオブザーバーとか対話パートナーとしてNATO加盟国のトルコが参加しています。

トルクメニスタンは永世中立を宣言して国連で認められているので入っていません。国連安保理では中露が同一歩調取ることが多いです。G20でも連携しています。CSO銀行もつくっています。BRICS開発銀行とともにそれぞれ500億ドル規模の出資をしています。SCO外貨準備金をつくっています。IMFの改革を求めていた中国が、そういうものを作ろうとした、戦後初めてのことです。

## 広がる中央アジアの非核地帯

非核地帯が世界各地にできましたが、一番新しいのが 2006 年にできた中央アジア非核地帯条約です。なぜできたかという点と間違いなく、セミパラチンスクのソ連の核実験であることは間違いありません。ウズベクとかトルクメニスタンにも一部影響があったと聞いていたのですが、そういう流れのなかで核問題が大きな問題になりました。さきほど 150 万人の被爆者がいることなど説明したが、もう一ついうと、ソ連崩壊の時に ICBM は当時、カザフとウクライナに配備されていました。91 年 12 月の時点で、ソ連軍を分割することになって、それはあとあと問題なってくる黒海艦隊なども含めていろいろなところを分割し、そこに配置されていたところの所有になりました。

ICBM はカザフ、ウクライナの所有になりました。だから 91 年 12 月の時点で、両国は核保有国になったわけです。これをどうするかが当時から国際的な枠組みで話されて、エリツィンが米国の属国のような立場になっていたのだから、彼はこれを米国の資金で解体していかうとした。カザフとウクライナには当時は金がなかったから、米国の核廃棄援助資金（議会で予算化された）を使ってやりました。やり方は 2 つ。運搬手段の廃棄は難しくないのだからそこで廃棄したが、両国は米欧とロシアとそれぞれ協定を結んで、核弾頭はロシアに持ち出して、米国の監視下、指導のもとで、米国の資金でプルトニウムをウランに戻すことをやりました。

ウクライナはその時、民族主義的傾向があつてこずつたので、国際協定の枠組みのなかに、核を廃棄するのだったら領土保全と安全を保障するという協定がむすばれました。ロシアも含めて、94 年です。クリミアの併合はこの協定を覆した行為で、批判が強いわけです。それだけでなくウクライナの一部では、我々はあの時核をもっていれば、ロシアはあんなことしなかったに違いないといつて、核を持つべきだという動きもでてきます。

しかしカザフスタンにはそういうことはありません。ナザルバーエフ大統領はなかなかの人物で、国連安保理の非常任理事国で 2018 年の 1 月に議長になったときに「われわれは核放棄をして経済発展してきている」「だから北朝鮮も核放棄をすべきだ」といいました。そういう枠組み作らなければならないといつた。それが影響したかどうか知りませんが、2、3 月と朝鮮半島の流れはできてきたと思います。ナザルバーエフがそれができたのは、国連で自分たちも一翼をにな

って核兵器禁止条約を成立させたという成果というか、自分たちもやればできるという力をみせた。中央アジア非核地帯条約で、もう一つ大きいのは、これを隣接する中露だけでなく米英仏が条項を裏書きする、順守するという議定書を調印しているのです。

## ユーラシアの観点からの朝鮮情勢

ユーラシアで人、モノ、金の動きがでるなかで、唯一できなかつたのが朝鮮半島でした。そこがやっと動きだした。当然、動くべきものだったと思います。ユーラシアでの反核の動きのなかでモンゴルも非核地帯条約にはいろいろとしましたが、モンゴルとカザフスタンが80キロくらい離れているために、つながらないからというので認められませんでした。そこでモンゴルは国連に非核の地位を申請して、国連総会の承認をえた。非核国にはいっています。それが南北朝鮮に入っても不思議でないと思います。

もう一つは、2007年に金正日総書記と韓国の盧武鉉大統領が南北首脳会談をやった時に、合意したことを今回具体化しているという話ですよね。南北の鉄道をむすんで、シベリア鉄道につないでと決めたとはいえ、その後の逆転でとまっていました。もう一つは知られていない話ですが、プーチンと金正日がパイプラインを引くということをお話しました。先ほど言ったように、サハリンからと東シベリアから流れてきているパイプラインと石油、天然ガスの流れがウラジオストックまできている。ウラジオから北朝鮮の豆満江までは百数十キロ、200キロないのです。そこを結んで釜山まで引こうというので、1億ドルの資金をだすからというので、当時金正日はOKしたとロシアのメディアは伝えましたが、最終的にはそれができなかつた。パイプラインが通ることは敵対関係がやわらぐということなのです。

いい忘れましたが、90年代に領土確定して最初におこなわれたのが、中国とロシア、中央アジア3カ国でおこなわれたのが兵力引き離しでした。200キロにわたって非武装地帯をつくりました。朝鮮半島もいま兵力引き離し、非武装地帯を中心にやるという話がでてきますね。だからユーラシアで国境が画定して経済圏が徐々に出来上がっていく過程がやられようとしていて、鉄道は実際つながっていますから、あとは行けばよい話です。これと兵力引き離しがおこなわれて、パイプラインがつながると大きな一つの流れができあがっていく。その意味は朝鮮半島の平和構築の上で大きいのでとても大きいのではないかと思います。

ユーラシア的観点から私が思い出すのは、2000年の金正日と金大中の首脳会談の時に、金大中がいったのは、南北が結ばれれば韓国はユーラシアの一部になったということをいいました。韓国がユーラシアの一部の一部になるようなことになると、ユーラシア東部の動きがさらに強まって、それは日本もそういう動きにつながってくるのではないのでしょうか。

ちなみにエネルギーでいえば、サハリンの天然ガスはいま、プリゴヌイでLNGにして東京ガスが引いています。それをパイプラインにしようという動きができています。ウラジオに流れてきている東シベリアの石油をパイプラインでひいて代替エネルギー源の一つにしようというわけです。いま10%がロシアになっています。増えてはいますが本格的な動きにはなっていないので、今後かなり日ロ関係の転換として、安倍プーチンの交渉で動きが出てくるのではないかと思います。そういうことで日本におけるユーラシアの存在感は大きくなっていくのではないかと思います。

## 遊牧民オリンピックから見る

オリンピック「世界遊牧民大会」には60カ国が参加しています。ロシア内の共和国から十数カ国、それに中央アジア、中東からの参加です。第1回が4年前にあって2年ごとにやっています。馬が中心の競技です。タカ狩りとかレスリングなど20数の競技があります。千人ぐらいが参加して新しい競技場でやりました。7カ国から首脳がきていました。トルコ、ハンガリー、アラブ首長国連邦(UAE)、アゼルバイジャン、カザフスタン、ウズベクスタン、キルギスの首脳です。なぜそういう国がというと、トルコはエルドアン政権がチュルク系や東の方にはりだしています。ハンガリーはEU内で反旗をひるがえしています。ポーランド、イタリアでポピュリスト政権ができています。

ハンガリーはもったきびしい。マジャール人で、スラブ人の血は一滴もない。UAEはタカ狩りで有名です。遊牧民の文化がハンガリーやUAEなどへの広がりをもっています。遊牧民オリンピックは次回トルコでやると思っています。つまり遊牧民といえば遅れたシステム、文化という考え方がソ連時代を含めずずっとありましたが、それが変わりつつある。自然との一体化のなかで欧米の文化と違うスタイルをつくる。欧米以外のOECD以外の国が、生産力をあげて経済成長をするモデルでなくても、もう一つの近代化の道があるのではないか、という考え方がでてきているのです。日本としても注目すべきだと思います。競技で驚いたのが「蒼き狼」というタイトルがありました。馬のサッカーです。4騎が

ヤギを相手の陣地までもっていく。トルコのアタチュルクも「灰色の狼」と言われて尊敬されている。アオキと灰色は、漢字は同じ。日本にも「狼神社」があちこちにあります。

## 日本の意識変革につながる

積極面をいいましたが、もちろんマイナス面もたくさんある。ロシアのウクライナ併合や中露関係といった問題です。中露両国が知り合ってから初めて力関係が逆転しました。この10年です。中国のGDPはロシアの4倍。ロシアにしてみれば、中国にのみこまれるのではないかという考え方も一部には根強くあります。国境は画定したといっても、沿海州はもともと中国だったという感情があります。人口は中国北東部3省で1億人、それに面するロシアは700万人で、結局ロシアは中国へのエネルギー供給基地化するのではという考え方があります。両国の大国主義への警戒心もあります。カザフに中国人がきます。外国人は土地が買えないから、カザフ人と結婚して土地を買い占めちゃう。経済力への期待はなるが、そういう大国主義への懸念はもちろんあります。今回はあえて、それを踏まえたうえで、積極面をのべさせてもらいました。

日本にとっては、領土問題と朝鮮半島の問題が今述べた大きな流れのネックになっています。その意味で、ユーラシアの変化がこれを変える意識変革のつかりになるのではないかと思います。たとえば、電力問題でもモンゴルをいれてグリッドで送電網を作る話があるし、もっと壮大な話では、環日本海の鉄道をつくろう。サハリンとは途中までトンネルが掘られたし、宗谷海峡を結べば可能だ。そういう交通とエネルギーの供給網ができれば、日本海がかわってくる。日本海の向こうは何かわけのわからぬ地域だというわれわれの意識も変わる可能性がある。ユーラシア経済交流圏ができあがりつつあるので、いまの学生の教科書にはユーラシア経済圏の記述がかつてありました。今後それが復活するかもしれない。そこに日本が占める位置が大きく、それだけの基盤ができあがりつつあるということを申し上げて話を終わります。

(了)